



玉川大学 農学部

TAMAGAWA UNIVERSITY
College of Agriculture

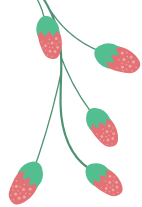
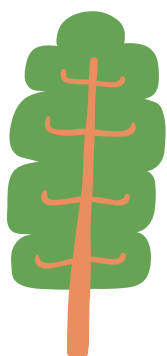
2026

生産農学科

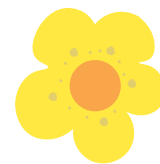
生物資源コース・生命科学コース
理科教育コース

環境農学科

先端食農学科



玉川大学 農学部



世界を舞台に農学の
新たな可能性を探索する人を育てる



農学部 Website

生産農学科

生物資源コース・生命科学コース

農学を幅広く学び、食と農の発展に貢献

#Keywords

- ・作物・果樹・栽培技術・分子育種
- ・ゲノム編集・微生物・病害防除
- ・農薬開発・バイオテクノロジー
- ・天然物化学・有用代謝産物
- ・社会性昆虫・昆虫生理・適応進化
- ・摂食行動・免疫・恒常性・生殖と発生
- ・ゲノム・遺伝子・タンパク質・細胞

農学と生命科学を総合的に学びたい人にお勧め！

理科教育コース

多岐にわたる自然科学の知識をもつ
理科教員になる

#Keywords

- ・中学校教諭一種免許状（理科）
- ・高等学校教諭一種免許状（理科）
- ・高等学校教諭一種免許状（農業）
- ・小学校教諭二種免許状
- ・ICTを活用した実践的な授業力
- ・安全で正しい実験方法・指導法
- ・豊富な模擬授業・模擬実験
- ・小中高理科の教材研究

理科や農業科の教員になりたい人にお勧め！

環境農学科

自然・農業・社会を多角的に理解し、持続可能な社会へ貢献

#Keywords

- ・環境保全・農業・絶滅危惧種
- ・栽培技術・国際協力・地域活性化
- ・環境適応・植物化学・生態系・森林
- ・里地里山・物質循環・環境動態
- ・土壌生態系管理・生物多様性・相互作用
- ・野生動物・動物生態・ドローン・人工衛星

国内外での体験を通じて、自然環境や持続的な農業を学びたい人にお勧め！

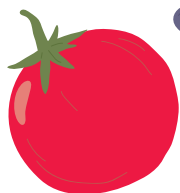
先端食農学科

サイエンスとテクノロジーを活用して、
未来の「食」づくりに挑戦

#Keywords

- ・食の6次産業化
- ・閉鎖系での食料生産・植物工場・陸上養殖
- ・食品衛生・食の安全・安心・保蔵
- ・食品加工・企画開発
- ・微生物利用・発酵・醸造
- ・食の健康機能・食品分析
- ・栄養生理・応用栄養・スポーツ栄養

食品の栽培・養殖から加工まで幅広く学びたい人にお勧め！



玉川大学農学部の特徴



1. 学内農場 (玉川大学キャンパス: 東京都町田市)

東京にありながら、学内農場には畑・水田・温室が揃い、種まきから収穫まで全ての農作業を経験できます。授業の合間でも気軽に圃場で作物の観察・調査ができます。さらに、農場周辺には里山が広がっており、さまざまな生き物たちに出会えます。



2. 触れることから始める実践的な学び

実際に手で触れて目で見えて学ぶ学修環境を整えています。玉川大学キャンパス内には、LED を利用した植物工場研究施設や食品製造を学べるフードサイエンスホールがあります。さらに、箱根の自然観察林や北海道・鹿児島の農場など、多様な環境の中で学びを広げることができます。



北海道
弟子屈農場

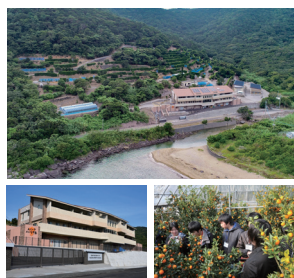
玉川大学キャンパス



植物工場研究施設



Food Science Hall



鹿児島
南さつま久志農場

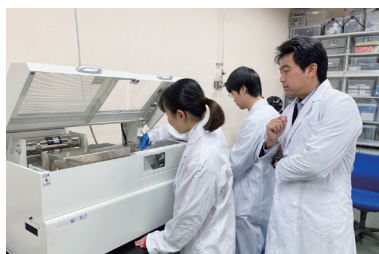


箱根自然観察林



3. 教員と学生がともに学ぶ ～師弟同行～

農学部では、教員と学生が共に学ぶことを大切にし、教職員が一丸となって学生の充実した学修をフォローします。1年次より担任がつき、全員への定期的な面談を行うだけでなく、普段からの声かけを大事にし、より良い大学生活が送れるようサポートしています。



生産農学科

Department of
Agri-Production Sciences



生物資源コース・生命科学コース



農学を幅広く学び、食と農の発展に貢献

学びのキーワードは「総合農学」です。生物を理解し、食糧生産を向上させるには農学を幅広く学ぶことが不可欠です。生産農学科では、地球上のさまざまな生物を研究対象として、マクロな視点（個体や集団など）とミクロな視点（遺伝子や細胞など）から生物の機能や特性を総合的に探究し、食と農の発展への貢献を目指します。

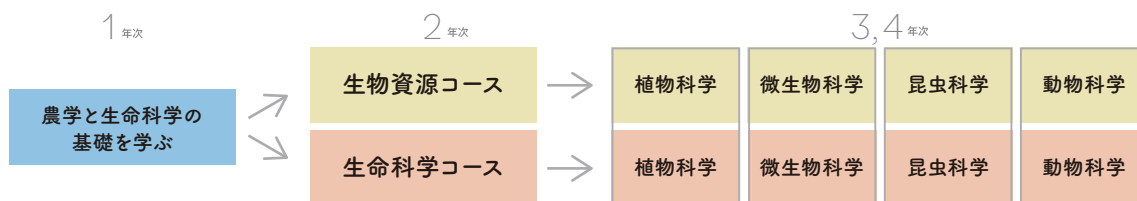
学びのポイント 2つのコース × 4つの専門領域で多様な学びの展開

1年次は農学と生命科学の基礎を学び、2年次から2つのコースに分かれて特色のある履修を進めます。

3年次からは2つのコースがそれぞれ4つの専門領域に分かれ、各コースの専門性を高めていきます。

生物資源コース：マクロの視点で食糧生産や農業技術の向上に取り組み、フィールドワークを中心とした研究活動によって食と農の発展に貢献していきます。

生命科学コース：ミクロの視点で生命現象の本質の解明に取り組み、ラボワークを中心とした研究活動によって食と農の発展に貢献していきます。



主な開講科目

セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
	農学や生命科学の 基盤となる科目を学ぶ		各コースの 基幹科目を身に付ける		興味や志向に合わせた 専門科目へ		学びたい専門領域を 究める	
講義科目	■ 生物学 A・B ■ 化学 A・B ■ 有機化学 A ■ 環境と農業 ■ 生産農学セミナー ■ 生物統計学 A		■ 有機化学 B ■ 昆虫資源学 ■ 微生物学 ■ 動物行動学 ■ 細胞生物学 ■ 生態学		■ 植物育種学 ■ 植物病理学 ■ ゲノム科学 ■ 植物生理学		■ 生産農学演習 B ■ 生産農学演習 C	
実験 実習科目	■ 基礎生物学実験 ■ 基礎化学実験 ■ フィールド実習 A		■ フィールド実習 B ■ 生物化学実験		■ 専門実験・実習 A ■ 専門実験・実習 B ■ フィールド実習 C		■ 卒業研究 A ■ 卒業研究 B ■ 卒業研究論文	
実験・実習 項目の例	■ 花の観察 ■ 陽イオン定性 ■ 昆虫の外部形態 ■ 酸度の測定 ■ 哺乳動物の内部形態 ■ 小農具の使用法 ■ 秋野菜の栽培管理 ■ 収穫物の品質調査		■ 生理活性物質の抽出 ■ タンパク質分離・DNA 抽出 ■ 害虫と農業・病原菌と農業 ■ 夏野菜の栽培管理 ■ 草刈り機講習		■ 土壌分析 ■ 酵素の動力学定数 ■ 天然物の抽出 ■ 遺伝子分離調査 ■ PCR 分析 ■ 学外農場での自然観察		■ 園芸作物の高品質化に関する研究 ■ ゲノム編集による生物の改良 ■ 植物寄生菌の分類や菌類病害の診断 ■ 社会性ハチ類の生理・生態の解析 ■ 動物の行動への環境の影響 ■ 栄養や環境の哺乳動物への影響	

※科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。



広い学内農場で作物の栽培管理を学ぶ

フィールド実習A (必修)



自分専用の畑で野菜を栽培

フィールド実習B



ハウス栽培も体験

北海道・鹿児島で幅広い農業に触れる

フィールド実習C (選択科目、1ヶ所で宿泊実習)



北海道 弟子屈農場の演習林を観察



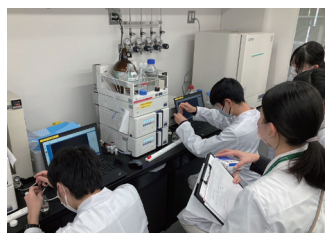
鹿児島 久志農場に面する海岸での調査

広く充実した実験室で理論と技術を身につける

実験背景と目的の理解、実験操作の習得、実験結果の取得と考察、レポート作成、レポートへのフィードバックを繰り返し、基礎力を身につけます。



基礎生物学実験



生物化学実験



専門実験実習

取得可能な資格

- ・環境再生医初級
- ・学芸員

受講可能な検定・講習等

(講義外、任意、別途費用がかかります。)

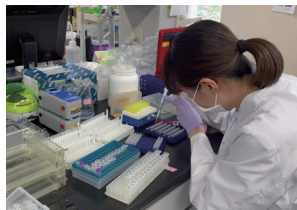
- ・農業技術検定
- ・刈払い・機取扱者安全衛生教育
- ・大径木伐木等(チェーンソー)特別教育(隔年)
- ・小型車両系建設機械(3t未満)特別教育(隔年)

農学に関する幅広い農学分野を網羅した4つの専門領域(3年次より配属)

*生物資源、生命科学の両コースとも4領域のいずれかに所属して学びます

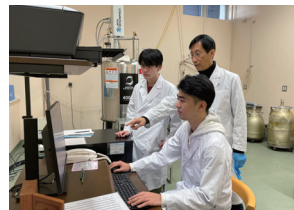
植物科学領域

作物・果樹の栽培技術の改良、分子育種や遺伝子機能解析に関する研究



微生物科学領域

菌類資源、微生物が生産する有用成分、および、農作物の病害防除などに関する研究



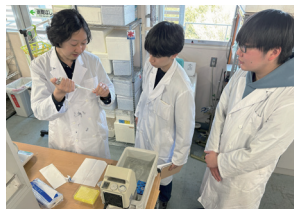
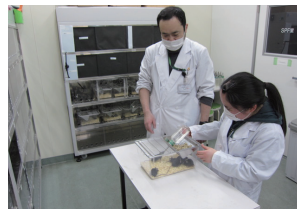
昆虫科学領域

社会性昆虫の行動・生態や機能利用、適応と進化の仕組みなどに関する研究



動物科学領域

動物の生理学的解析、動物の発生や行動解析に関する研究





Student Voices

生産農学科 生物資源コース・生命科学コース

*取材時の学年を表記



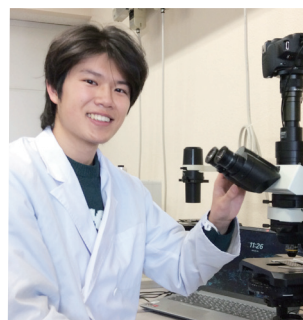
植物科学領域
倉石 彩楽さん(3年生)
埼玉県 いずみ高等学校出身

入学のきっかけ

子どものときから祖母の野菜作りを手伝っていたので、農学の勉強は楽しそうという気持ちがありました。高3の夏のオープンキャンパスで玉川大学のキャンパスの中に広い農場があることを知って入学したいと思いました。

学科での学びと私のキャンパスライフ

「果樹園芸学」を学んで果樹の栽培に興味を湧きました。ゼミで学内農場のパッションフルーツの管理を行いながら、たまに食べることもできるのも楽しみの一つです。また園芸班長として農場の管理を手伝い班員たちをまとめています。活動は週1回ですが、タンカンの収穫のために鹿児島の久志農場に行くこともあります。収穫したタンカン装箱詰めて、販売したことが印象に残っています。



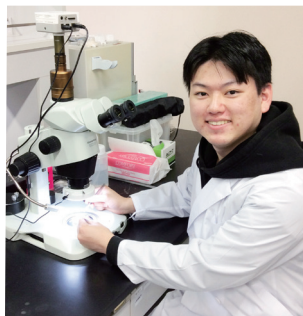
微生物科学領域
澤村 亮太さん(3年生)
富山県 富山東高等学校出身

入学のきっかけ

ずっと農学を勉強したいと思っていましたが、進学先選びに悩んでいました。そんな時、出身高校の先生の紹介で玉川大学を知りました。初めて大学を訪れたときに、広大なキャンパスと大きな講義棟に圧倒されたのを今でも思い出します。

学科での学びと私のキャンパスライフ

富山では、秋には毎年のように大量のもみ殻を焼却処分しているのを幼少期から見えていました。なんとなくですが、当時からもみ殻の再利用ができなにか考えていました。現在は微生物を使ったもみ殻の再利用を研究したいと思っており、大学院への進学も視野に入れて学んでいます。大学3年のときには農業技術検定の2級に合格しました。卒業までになんとか1級をとりたいと思っています。



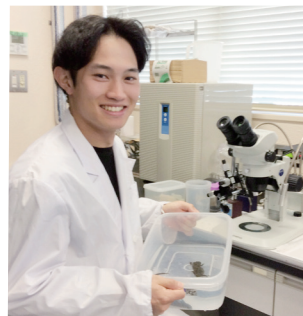
昆虫科学領域
居橋 勇祐さん(4年生)
東京都 杉並高等学校出身

入学のきっかけ

小学生のときに科学館でアリの講義を聞いてアリの生態に興味を持ちました。それ以来、自宅でおズアリ、ウロコアリ、カギバラアリを採集し飼育していました。大学でもアリについて深く学びたいと思い、農学部への進学を決めました。

学科での学びと私のキャンパスライフ

卒論では育児期間中のクロオオアリ女王を解剖し胸嚢の形成過程を明らかにしました。この研究成果は、関東昆虫学研究会や日本生態学会での研究発表につながり、さらに研究したいという気持ちになりました。今後は大学院に進学して遺伝子レベルで解析したいと思っています。また「農業ボランティアサークル」で月に2~3回、近隣の農家の手伝いをしています。栽培や収穫だけでなく販売も行っています。



動物科学領域
寒河江 海月さん(3年生)
千葉県 木更津総合高等学校出身

入学のきっかけ

物心がついた頃から祖母の家庭菜園を手伝ったり、桜やソテツの大木の下で遊んでいたのも、農業や自然をとて身近に感じていました。出身高校の先輩が玉川大学農学部に進学していたのも決め手です。

学科での学びと私のキャンパスライフ

「細胞生物学」の講義を履修して動物科学領域の研究に興味を持ちました。今は両生類の飼育管理技術を勉強中です。これから動物の発生の研究に取り組みたいです。また3年次は大学祭の実行委員長を務めました。全員の意見を聞いてまとめるのは、コミュニケーション能力にあまり自信がなかった自分にとって大きなチャレンジでした。無事到大役を果たすことができ、自信が持てるようになりました。

生産農学科 理科教育コース



三門 菜乃さん(3年生)
神奈川県 桐光学園高等学校出身

入学のきっかけ

バレー中心の毎日を送る中で、子どもたちが大人になっても記憶に残っているような教師になりたいと思うようになりました。志望校を決めるときに、小学校の教員と中学校の理科教員免許を同時にとれることから進学を決めました。

学科で学びと私のキャンパスライフ

1年次には「フィールド実習」など学科の共通科目を履修するので、農学の基礎的な知識や技能が身につきます。このコースは理科の先生になりたいという共通の目標を持った仲間が全国から集まっているので、学食などでは地元トークで盛り上がります。今は近隣の小学校の理科支援員と学習サポーターをしています。実践経験を積みながら理科教員になるための勉強ができるので学びが深まります。



會田 太一さん(3年生)
神奈川県 相模原弥栄高等学校出身

入学のきっかけ

幼い頃から図鑑を見たり博物館に行くのが大好きでした。小学校から理科は好きで友人に教えたりする機会もあり、なんとなく先生になりたいと思っていました。オープンキャンパスで理科教育コースの説明を聞いて進学を決めました。

学科での学びとキャンパスライフ

2年次に履修する「理科指導法」では教壇に立って模擬授業を行います。先生だけでなく学生同士でアドバイスし合うことができるので、毎回「新しい気づき」があってとても良い勉強になりました。3年次では、ブタの脳の解剖をしたことも印象的でした。今は排球サークルの代表を務めながら、生徒が親に話したくなるような魅力的な授業ができる理科教員を目指す日々を送っています。

生産農学科 理科教育コース



理論と実践をバランスよく学び多岐にわたる 自然科学の知識をもつ理科教員になる

理科教育コースでは、児童・生徒に理科の面白さや不思議さはもちろん学問としての奥深さも伝えることのできる教師を養成します。1年次には生物学、化学を学びつつ農場での栽培実習『フィールド実習 A』を行います。その後、物理学、地学の専門的な知識を修得し、理科の実践的な授業スキルや実験指導スキルを身に付ける専門科目（『理科指導法Ⅰ～Ⅳ』『生物実験スキル』『化学実験スキル』『教職実践演習』『教材研究』等）に取り組んでいきます。

理科教育コースの学びは、1年次から同じ志を持ったクラスメイトと共に進められていくのが特徴です。日頃から教壇に立つことを想定し主体的に授業に取り組む学生を歓迎します。

理科教育コースでは、高等学校一種免許状（農業）も取得できます。さらに、小学校二種免許状を取得できるダブル免許プログラム*も実施しています。

*ダブル免許プログラムの受講には別途費用がかかります。



主な開講科目

シラバス(講義要覧・シラバス照会をクリックしてください。)
※科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。



1 年次		2 年次		3・4 年次		将来は	
参観実習など現場に触れながら、 教職の意義と基礎理論を修得。		理科に関する科目を学ぶとともに、 指導法の基礎を修得。		教科・教職双方の専門性を養い 実践力と応用力を身につける。		理科・農業科の面白さを 伝えられる教員へ	
1 年次	2 年次	2 年次		3 年次		4 年次	
セメスター	1	3	4	5	6	7	8
学科の専門科目							
■ 生産農学セミナー ■ 化学 A・B ■ 基礎化学実験	■ 生物学 A・B ■ 基礎生物学実験 ■ フィールド実習 A	■ 物理学 ■ 有機化学 A ■ 生物統計学 B ■ 地学実験	■ 地学 ■ 生化学 ■ 物理学実験	■ 分析化学 ■ 分子生物学 ■ 細胞生物学	■ 動物行動学 ■ 野外活動指導法	■ 作物学 ■ 緑地保全学	■ 植物育種学 ■ 野外活動指導法
教職科目							
■ 教育原理 ■ 学習・発達論	■ 教職概論	■ 教育方法・技術論 ■ 教育の制度と経営	■ 特別支援教育 ■ ICT 活用の理論と実践	■ 教育相談の理論と方法 ■ 生徒・進路指導の理論と方法 ■ 道徳教育の理論と方法		■ 教育実習 ■ 教職実践演習	■ 教職演習
教職関連の専門科目							
		■ 理科指導法Ⅰ・Ⅱ ■ 職業指導(農業)Ⅰ	■ 農業科指導法Ⅰ・Ⅱ	■ 理科指導法Ⅲ・Ⅳ ■ 化学実験スキル	■ 生物実験スキル	■ 教材研究	
参観実習／学校体験活動 A		教育インターンシップ／介護等体験／学校体験活動 B			教育実習		



環境農学科

Department of
Agri-Environmental Sciences



生態系科学領域／持続的農学領域



AES_TAMAGAWA

自然・農業・社会を多角的に理解し、持続可能な社会へ貢献

持続可能な開発目標（SDGs）への社会的な意識の高まりから、専門的知識と問題発見・解決能力を持つ人材が世界的に求められています。それには、関連するさまざまな知識や経験、また、国際的に通用する英語力が欠かせません。環境農学科では「自然・農業・社会」をテーマに、豊富な英語プログラムや体験型授業、海外留学（約4ヶ月）、3年生後期以降の専門課程を用意し、これからの地球環境を支える「SDGs人材」を育みます。

学科基幹科目

※海外留学の時期により、科目を受講する時期は異なります。 ※科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。

1年次		2年次		3年次		4年次		
基礎を築く		発展的に学ぶ		研究の基礎を学ぶ		卒業研究		
セメスター→	1	2	3	4	5	6	7	8
	■ 農業と自然環境 ■ 化学入門 ■ 生物学入門 ■ 農場実習A ■ Intensive English A ■ ELF	■ 基礎生物学実験 ■ 環境と生態 ■ 環境農学概論 ■ 農場実習B ■ Intensive English B ■ ELF	■ 土壌生態学 ■ 自然環境保全学 ■ 統計学入門 ■ 環境農学実験 ■ ELF	■ General English ■ Plant Science ■ Ecology ■ Natural Resource Management ■ Regional Environmental Studies	■ 持続的農業論 ■ 農学国際協力 ■ 地球環境科学 ■ 農場実習C ■ ELF ■ Practical English for Science	■ 野生動物学 ■ 緑地生態学 ■ 領域演習A ■ ELF ■ Comprehensive Agri-Environmental Studies	■ 領域演習B ■ 卒業研究A	■ 卒業研究B ■ 卒業研究C

農場実習A・B

（1・2セメスター）

「体を動かしながら学べて楽しい!」と毎年、毎年、1年生に大好評の科目です。



領域演習A

（6セメスター）

卒業研究の準備として、教員の指導のもと、実験や調査を通して専門基礎を学びます。



Student Voices



長谷川 まひろ(4年生)

新潟県 長岡農業高等学校 出身

なぜこの学科を選びましたか?

農業高校時代にブランド野菜の栽培や販売、人と動植物の関わりなど、身近な生活環境を学んだ経験から、「環境」に興味を持ち、実習が多く、学べる場所が多いこの学科を志望しました。

実際に入学して感じたことは?

農業に関わる実習・講義についていた一方、英語はTOEIC 200点代からのスタートで、「どうしよう」と不安に思っていました。しかし、英語の先生に連絡し、勉強法を教えてもらい、4年生でついに685点の最高点を取ることができました。大学生活では、学外での実習や、留学中にホストファミリーとハイキングへ出かけたりと、内向的な私がこれまでと違う時間を過ごすことで世界が広がり、色々なことを楽しめるようになりました。



五十嵐 翔馬(3年生)

神奈川県 茅ヶ崎高等学校 出身

なぜこの学科を選びましたか?

カヌーやキャンプなどが大好きで、大学では自然や環境について学びたいと思いました。特に実体験を通した学びが大切だと考え、実習や留学などのカリキュラムが豊富なこの学科を志望しました。

実際に入学して感じたことは?

都市近郊のキャンパスでありながら身近に広大な自然や農地があり、また様々な農機具や分析機器が揃っていることに驚きました。想像していた以上に、実体験をともなう授業が多く、満足しています。特に留学先では英語での授業やホームステイを経験し、実践的な英語力やコミュニケーション力を身に付けられました。ここで得られた力は海外旅行やバイトでもすでに生かされていて、就職後も大いに活用できそうです。

国内プログラム

学内と学外(箱根・北海道・鹿児島)での農場実習で、農業と自然を学ぶ



箱根自然観察林

山地の自然や動植物とともに
野外での安全な活動方法や
山地の保全活動についても学ぶ



北海道弟子屈農場

演習林実習、畜産実習、農業施設見学、
周辺の自然観察調査を行い、
寒冷地ならではの農業と自然を体験



鹿児島南さつま久志農場

柑橘や熱帯果樹の管理、農業施設見学、
隣接するビーチで沿岸生態系を調査を行い、
温暖地ならではの農業と自然を体験

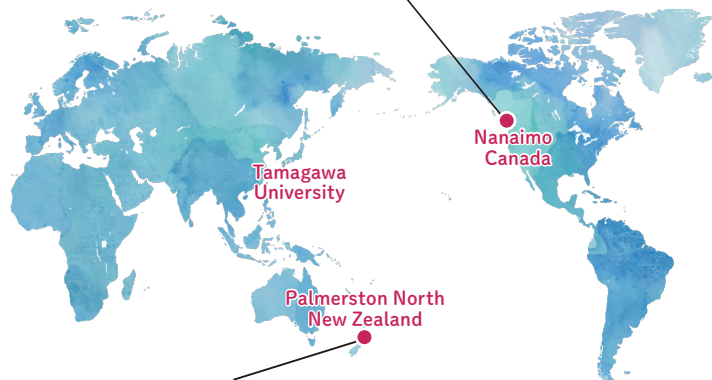
海外留学プログラム

4ヶ月の海外留学(必修)を含め、4年間で卒業

Vancouver Island University, Canada

バンクーバーアイランド大学

(カナダ、ブリティッシュコロンビア州、ナナイモ)



Massey University, New Zealand

マッセー大学

(ニュージーランド、パーマストンノース)

英語科目と、フィールドワーク(野外授業)を含む
自然・農業・環境の専門科目を受講



国際社会で通用する語学力を身につける

環境農学科の英語教育



2つの専門領域

3年生より「生態系科学領域」「持続的農学領域」のどちらかに所属し、
4年生からは専門分野に分かれ卒業研究を進めながら、より高度な知識と技術を身に付けます。

生態系科学

生態系や地球環境の成り立ち、
人間による環境への影響を研究する

持続的農学

環境負荷の少ない農業技術や
希少植物の栽培手法、農業と社会の関わりを学ぶ

最近の卒業生の研究テーマ(一部抜粋)

- 広葉樹二次林における生木と枯死木周辺の土壌呼吸特性
- バイオチャーを用いた都市緑地への炭素隔離
- 倒木による周辺環境の改善と生物多様性
- 北海道における野生動物のログ堆積物利用について
- 外来種ハッカチョウが在来種ムクドリに及ぼす影響
- 中型外来哺乳類の誘引餌の検討
- スナガニ類が土壌堆積物の有機物分解に与える影響
- 光学衛星画像を用いた夜間光による落葉抑制の観測
- 水耕栽培装置における液槽内の濃度がトマトに与える影響
- スギカワ培地における灌水頻度とコショウランの生育
- 野生ラン科植物の採種法の検討～受粉方法と受粉量について～
- オオタニワタリの胞子による人工増殖法の検討
- 農福連携の現状と今後の展望～神奈川県を事例として～
- スマート農業の都市農業における普及と障壁、今後の展望
- ハマベンケイソウの花色変化に関わる化学的要因の検証
- 南さつま市産の柑橘類、タンカンノの生長に伴う品質の変化



サイエンスとテクノロジーを活用して、未来の「食」づくりに挑戦

先端食農学科では、食品の持つ役割や安全性について理解を深め、既存の農業を超えた食料生産のしくみや食品の機能性、食品製造にかかわる専門的な知識と実践的な能力を身につけます。

既存の農業を超えた食料生産システムとして、LED を用いて野菜を生産する「Future Sci Tech Lab」や、海産物を陸上で養殖する「Aqua-Agri Station」、生産された食料から安全・安心な加工食品を製造する「Food Science Hall」など、大型の実習施設が設置されており、これらの実習施設を利用しながら新しい食料生産のしくみを体験的に学修します。



Future Sci Tech Lab



Aqua-Agri Station



Food Science Hall

主な開講科目

取得可能な資格：食品衛生管理者、食品衛生監視員（任意資格）など

※ 履修状況により、取得可能な資格が異なります。

1 年次 食料・食品を理解する 基盤を築く		2 年次 実験・実習で知識とスキルを 修得する		3 年次 専門領域に所属し、実験・実習・ 演習を通して問題点を見出す		4 年次 専門領域の中からテーマを発見 し追求する		
セメスター	1	2	3	4	5	6	7	8
講義科目	■ 生物学	■ 化学	講義科目	■ 生物化学A・B	講義科目	■ 食品衛生学	講義科目	■ 先端食農演習A
	■ 有機化学A	■ 分析化学		■ 有機化学B		■ 畜産物利用学		■ 先端食農演習B
実験実習科目	■ 先端食農セミナー		実験実習科目	■ 水産学	実験実習科目	■ 植物生理学	実験実習科目	
				■ 生物統計学		■ 栄養生理化学		
実験実習科目	■ 基礎生物学実験		実験実習科目	■ 食品加工実習	実験実習科目	■ 専門領域研究A	実験実習科目	■ 卒業研究A
	■ 基礎化学実験			■ フィールド総合実習B		■ フィールド総合実習C		■ 卒業研究B
	■ フィールド総合実習A						■ 卒業研究論文	
3 年次より専門領域（システム農学領域／食品科学領域） に所属します								

※ 科目名称や開講するセメスターは、変更されることがあります。



システム農学領域

農業の効率化や省力化を実現するために新しい技術の研究開発に取り組んでいます。ただ単に新しさを求めるだけでなく、卒業研究では基礎からの積み上げを重視しています。

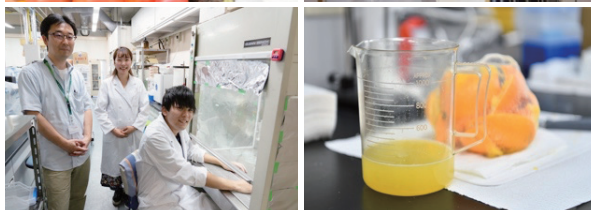


植物工場や陸上養殖施設などの閉鎖系循環システムを利用した卒業研究が可能です。近未来型の食料生産に携わることで、新たな農業を考えてみよう。



食品科学領域

食品の安全、美味しさと健康について研究しています。新たな「食」づくりのための製造技術や機能性の解明という卒業研究に取り組むことで、社会で活躍できる人間形成を重視しています。



線虫やマウスなどのモデル生物、あるいはヒトを対象とした卒業研究が可能です。また、食品製造工場で使われている食品加工機械を操作して、新たな食づくりを考えてみよう。

Student Voices

入学のきっかけ

小さい頃から食べることが好きで、大学では食品について学びたいと考えていました。玉川大学は、先生と学生との距離が近く、植物工場や Food Science Hall などの施設を使って食品についての実践的な学習ができると考えて入学を決めました。

先端食農学科での学びや魅力

レポート作成や試験など、勉強は大変ですが、自分が好きなことを学べるのでやりがいがあります。特に、植物栄養学や食品加工実習などの授業を通して、食品の生産から加工まで幅広い視点を持つことができました。園芸班の活動では、校舎から農場まで距離が近いので、育てている野菜の様子を頻繁に見に行くことができます。植物に対する興味がますます深まり、食品についてとても好きになりました。



高瀬 圭輔さん(3年生)
新潟県 新潟第一高等学校 出身



隅田 美羽さん(2年生)
広島県 安田女子高等学校 出身

入学のきっかけ

私は小さい頃から食物アレルギーがあり、アレルギーを持つ人でも安心して食べられるものを開発したいと考えていました。玉川大学では、食品の機能性や製造に関わる知識や技術を身につけることができる点に魅力を感じて入学を決めました。

先端食農学科での学びや魅力

先端食農学科では1年生から、体験的な学びをすることができます。特に、学園内にある農場でトマトの定植、栽培、収穫を行った授業が印象に残っています。収穫後、トマトの栽培において自分が興味を持ったことについて調べ考察しました。授業を通して、大学では高校生の時よりも更に、主体的な姿勢で授業に取り込むことが大切であることに気づきました。



山下 義愛さん(1年生)
神奈川県 日本工業大学駒場高等学校 出身

入学のきっかけ

中学生の頃、ふとこの食べ物はどこから来ているのだろうと考え、日本の低い食糧自給率が目に留まりました。その対策を調べていく中で玉川大学の LED 植物工場を知り、興味を持ち入学を決めました。

先端食農学科での学びや魅力

先端食農学科の1年生の実習や実験では、解剖やトマト栽培、農機具の取扱い等、専門に縛られず様々な授業が行われます。高校とは違い、ただ暗記ではなく、理解が大切で、自分で考えるという作業をたくさん繰り返します。また私が所属する「園芸班」では、年中、食物の栽培活動を行っています。定期的に土に触れる事は、農業を学びたいと思った私の原点に引き戻してくれる大切な時間です。

農学部 × キャリアセンター

就職に向けたサポート体制とキャリア教育



学年に応じてステップアップするキャリア教育

- ・1年次：キャリアについての講話
- ・2年次：進路開拓研修
- ・3年次：就職マナー講習（面接対策等）
就職対策講座 / 業界研究会
- ・随時、個別相談への対応

生産農学科 生物資源コース・生命科学コース

主な就職先

- ・タキイ種苗(株)
- ・雪印種苗株式会社
- ・日本農林社
- ・科研製菓株式会社
- ・丸和バイオケミカル(株)
- ・キュービー醸造株式会社
- ・日本食研ホールディングス
- ・横浜森永乳業(株)
- ・イオンアグリ創造株式会社
- ・ホクト株式会社
- ・秋本食品(株)
- ・栄農人(株)
- ・アグリ総研(株)
- ・大田花き(株)
- ・理研グリーン(株)
- ・サミット株式会社
- ・長坂養蜂場
- ・(独)家畜改良センター
- ・埼玉中央農業協同組合(JA埼玉中央)
- ・横浜農業協同組合(JA横浜)
- ・西東京農業協同組合(JA西東京)

生産農学科 理科教育コース

取得可能な免許・資格

- ・[理科]中学校教諭一種免許状
- ・[理科]高等学校教諭一種免許状
- ・[農業]高等学校教諭一種免許状
- ・小学校教諭二種免許状
(ダブル免許プログラム受講により取得可能※)

※プログラムの利用には、入学後一定の成績を満たし、学部への選抜を経ることが条件となります。また、通信教育課程で学ぶ費用がかかります。

主な就職先

- ・小学校教諭(全科)、
中学教諭(理科)、
高校教諭(理科、農業)
- 東京都教育委員会
- 神奈川県教育委員会
- 埼玉県教育委員会
- 千葉県教育委員会
- 茨城県教育委員会
- 山梨県教育委員会
- 静岡県教育委員会 等

※2021-2024 理科教員養成プログラム実績

環境農学科

主な就職先

- ・株式会社環境管理センター
- ・(株)シャトレーゼ
- ・共立製菓株式会社
- ・株式会社大田花き
- ・公益財団法人埼玉県学校給食会
- ・清水建設(株)
- ・山崎製パン(株)
- ・(株)雪国まいたけ
- ・イオンリテール(株)
- ・(株)京樟
- ・UTコンストラクション(株)
- ・町田市農業協同組合(JA町田市)
- ・(株)伊藤園
- ・平松畜産(株)
- ・(株)ユニバーサル園芸社
- ・(株)那須環境技術センター
- ・ユニフルティージャパン
- ・東京スバル(株)
- ・東一川崎中央青果(株)
- ・生活協同組合ユーコープ
- ・全国農業協同組合連合会 茨城県本部(JA全農いばらき)
- ・大内山酪農農業組合
- ・住友林業緑化(株)
- ・応用地質(株)
- ・玉川村役場
- ・埼玉県庁
- ・小田原市役所

先端食農学科

主な就職先

- ・(株)伊藤園
- ・キュービー(株)
- ・協同乳業株式会社
- ・高梨乳業(株)
- ・マルハニチロ(株)
- ・マリンフーズ(株)
- ・はごろもフーズ(株)
- ・日本ハム(株)
- ・菊正宗酒造(株)
- ・株式会社東ハト
- ・敷島製パン(株)
- ・フジパンググループ本社(株)
- ・(株)創味食品
- ・株式会社明治屋
- ・日本食研ホールディングス(株)
- ・イオンリテール株式会社
- ・日清食品(株)
- ・プライムデリカ(株)
- ・わらべや日洋食品(株)
- ・伊藤忠食品(株)
- ・(株)シャトレーゼ
- ・東和薬品(株)
- ・全国農業協同組合連合会 茨城県本部(JA全農茨城)
- ・セレサ川崎農業協同組合(JAセレサ川崎)
- ・横浜農業協同組合(JA横浜)
- ・(株)ローソン
- ・キュービータマゴ(株)

アクセス

- 新宿より小田急線(快速急行)に乗りし、
「新百合ヶ丘」にて〈各停〉〈準急〉に乗り換え
所要時間 約30分
- 横浜よりJR横浜線「町田」にて
小田急線〈各停〉〈準急〉に乗り換え
所要時間 約45分
- 羽田空港から京急空港線に乗りし、
「京急蒲田」で京急本線に乗り換え「横浜」へ。
JR横浜線に乗り換え、「町田」で
小田急線〈各停〉〈準急〉に乗り換え
所要時間 約90分



Information

お問い合わせ

TEL 042-739-8155

〒194-8612 東京都町田市玉川学園6-1-1 (入試広報部)

e-mail: koho@tamagawa.ac.jp

土曜・日曜・祝日及び下記の期間は休務となります。

12月24日～1月5日(冬期休暇)

※その他、学園行事及び入試広報部諸行事で休務となることがあります。ご了承ください。

https://www.tamagawa.ac.jp/college_of_agriculture/



入試Navi